

静私心なだより



- 夏の研修報告
- 東海北陸福井大会
- 教員養成機関との意見交換会
- 子育てフェア(沼津・島田・榛南)
- 特集「ごっこ遊び・劇遊びのすすめ(その6)」長田安司
- コミュニティ(保育の窓)
- 園内安全管理研修会
- もの思い(みなみ幼稚園・西町幼稚園)
- 街ぶらり(三島市・沼津市)
- 健康随想/吉野友勝



NO.181
2017 12
Winter

夏の研修報告



初任者（宿泊）研修

平成29年8月21日・22日に掛川市のつま恋で私立幼稚園初任者研修が行われました。

当日は県内の私立幼稚園に本年度採用された初任教員が参加し、2日間にわたり「素晴らしい保育者をめざして」というテーマでの研修が行われました。今年度も保育者としての心構えから、実際に体を動かしながらの保育について実技研修、社会人としての基本的なマナーについてなど幅広い分野にわたる内容のものでした。

初日は、村田夕紀先生（四天王寺大学短期大学部教授）による「かいたり作ったりを楽しもう」という製作活動について実技研修がありました。午後からは、DVDを見てレポートを作成する演習を行ったあと、二木秀行先生（静岡福祉大学講師）による「表現あそびをたのしもう！」や荒巻太枝子先生（早出幼稚園園長・静岡県シエアリングネイチャー協会代表）による「自然の見方、感じ方」という研修を行いました。表現あそび



の研修では、講師の先生と一緒に歌ったり踊ったり、全員がとも楽しく研修に取り組んでいたのが印象的でした。自然の見方の研修では、みる・きく・さわる・かぐ等私たちの感覚を使って自然に親しむ「ネイチャーゲーム」という活動を通して、全員が外に出て季節のものを感じ自然に親しむことができました。講義形式の研修とは違い、先生方が自ら動いたりグループに分かれて意見を出し合ったりと動きのある研修となりました。

2日目は、大貫ななみ先生（静岡県私立幼稚園振興協会研修副委員長）による「いのち育むの活用について」の講義がありました。これから幼児教育に携わっていく中で何が大事なのか、直接聞くことができると貴重な機会となりました。最後に、山岸弘子先生

先生も熱心に研修に取り組んでいました。



今回の初任者研修も2学期からすぐ

に実践できる大変内容の濃いものでした。これを機に、先生たちが持っている力を更に伸ばし、今回学んだ内容を一つでも多く日々の保育で還元し、より質の高い保育ができるようになってほしいと思っています。また、今後も日々努力精進し、更に素晴らしい保育者になってほしいと思います。

今回は研修に参加された新任の先生方に、今後の抱負を聞いてみました。

初任者研修を終えて

上野幼稚園

市川芽衣



質問① 今回の初任者研修で自分にプラスになったこと。

「新人は出来ない、分らないことが当たり前で失敗は避けられない。大切なのは、失敗から何を学び、どう生かすかである。」と失敗を前向きにとらえることが出来るようになりました。

質問② 今後自分で深めていきたいと思ったこと。

様々な場面における子どものやる気を引き出す環境構成、声掛けについて実践を通して深めていきたいと思いました。

質問③ 今後の抱負

子どもたちが園生活を楽しめるよう、常に子どもと同じ目線に立って日々の保育をしていきたいです。向上心を忘れず、保育者として成長できるように努めていきたいと思えます。



初任者研修を終えて

駿河台幼稚園

森谷夏実



質問① 今回の初任者研修で自分にプラスになったこと。

講義を受け、子どもは「分かってく欲しい」「共感して欲しい」「気持ちを共有してほしい」と感じているという事を知りました。1学期の私は子どもが泣いていたり、困っていたりすると「どうしたの?」と聞き、経緯ばかり気にして、子どもの気持ちや思いの理解を二の次にしていたと気付く事ができました。

質問② 今後自分で深めていきたいと思ったこと。

なぜ子どもの目から涙が出る事になったのか、理由を知る事はもちろん大事だと思っております。けれども、まずはどこが痛いのか、なぜ寂しくなったのか、何か嫌な事があったのか、子どもの気持ちに寄り添い共有する事を大事にしていきたいと思えました。

質問③ 今後の抱負

子どもの立場に身を置いて、どう受

け止めたのか、どんな気持ちなのかを第一に考えられる保育者に私はなりたいです。

初任者研修を終えて

富塚幼稚園

伊藤千紘



質問① 今回の初任者研修で自分にプラスになったこと。

普段の生活と離れ、豊かな自然の中での研修はより深く保育について考え、学ぶことができた場となりました。毎日の保育の中で実践できるように事ばかりで、「明日からやってみよう」「あの子が喜びそう」などと感じながら講義を受けることができました。

質問② 今後自分で深めていきたいと思ったこと。

今回の研修では、改めて担任の在り方、新任教諭の在り方、基本的なマナーなど自分の意識で選べるものばかりでした。毎日の園生活で子ども達と過ごす中で学んだことを「意識」して過ごすようにしたいです。

質問③ 今後の抱負

慌しく過ぎていった1学期を終え2学期を迎えるにあたって、理想の保育者像を考え直すことができました。講義の内容は忘れかけている大切なことばかりでした。子どもに寄り添い共感してあげられる、表現豊かな保育者を目指して行きたいです。



平成29年度 東海北陸地区私立幼稚園教育研究福井大会報告

東海北陸地区私立幼稚園教育研究大会が、7月27日28日に福井市で盛大に開催されました。

全体会は、フェニックスプラザ大ホールにおいて開催されました。

マリンバコンサートのウエルカムステージに続き、開会式では全日本私立幼稚園連合会の香川会長より福井県私立幼稚園・認定子ども園協会の役員並びに実行委員の皆様へ感謝の言葉がかけられました。東海北陸地区会石井会長からは、福井県私立幼稚園・認定子ども園協会会長をはじめ役員の方々の先生方の真心の準備に感謝の言葉がかけられました。西川福井県知事からは、『幼児期は基本的な生活習慣はもとよりリーダーシップ、忍耐力、協調性、やる気といった生涯にわたる人間形成が培われる重要な時期であり、幼児期の遊びを中心とした豊富な体験によつて身につけた学びの基礎が小学校以降の、ひいては生涯の学びにつながります』とお話を頂きました。次に、東村福井市長と徳本実行委員長との挨拶を頂きました。続いてマリンバ・パーカッションデュオ「Pulsu DU」によるコンサートと、福井県私立幼稚園・認定子ども園PTA連合会合唱部・ダンス部の保護者の皆さんによる心のこもった合奏やパワフルなダンスで会場を盛り上げ、最後に幼稚園賛歌を全員で歌って開会式が閉じられました。

そのあと「これからの幼児教育とは」と題して、無藤隆先生による基調講演があり、「幼児教育を本音で語る」と題して4人の先生による座談会、続いて3児のパパである俳優の杉浦太陽さんによる「未来を生きる子ども達へ」と題した記念講演が会場を盛り上げていました。



ン&マジシャン&翻訳家の大友剛さんによる講演会が開催されました。



教員養成機関との意見交換会

教員養成機関と当振興協会との意見交換会が、去る平成29年7月10日(月)13時30分から私学会館5階会議室にて開かれました。この意見交換会は毎年開かれており、22年度からは広報委員会が主管しています。今年度は、本県及び隣接する神奈川県・愛知県の3県の養成校から25校34名、協会からは28園28名の出席を得て開催されました。

当日は、「全体会」にて理事長挨拶の後、後藤広報委員長より趣旨説明を行いました。続いて「分散会」では出席者がA～Eの5グループに分かれて、各グループ毎司会の先生方を中心に活発な意見交換会を行いました。その後「全体交流会」において各グループの書記より分散会の内容発表が行われました。

分散会では様々な話題についての議論がなされましたが、やはり就職に関する話題が多く養成校によって差はあるものの、全体的には保育園希望の学生が多いということでした。理由として、幼稚園に比べ保育園の求人が多い・内定の時期が早いことや、保育園は勤務時間が決まっている・複数担任、多人数で子どもを見る事が出来るといった理由が挙げられました。また、幼稚園で一人担任の自信がない・持ち帰りの仕事が多い・行事の時に帰りが遅くなる・昇給が少ない・ピアノの演奏に不安を感じる等のマイナスイメージもありました。反対に、私立幼稚園

を希望する学生の意見としては、幼稚園は丁寧な指導してくれる・一人担任に楽しみや喜びを持つている・自分に合う幼稚園なら私立の方が働きやすい・実習担当の先生に憧れている等の声が聞かれました。他にも、教育実習・免許更新・ガイダンス等多岐にわたって充実した話し合いが行われました。

今後、各幼稚園・こども園また、協会として今後の園を支えていく学生の確保はより重要になってきます。保育園希望の学生が多い今、まず、学生の公私幼保の志向や希望をよく知り、私立の魅力発信していく努力が必要です。各園もより産休・育休・時短勤務等教職員が長く働きやすい環境を整えていくことや、事務量の軽減等の改革を進めていかなければいけない時期になってきています。そして何より各園の建学の理念を念頭に幼稚園独自の教育を守っていくことが大切になってきます。協会としても、ガイダンスやキャリア

パンの充実など、協会・各園と養成校・学生との距離や意識を縮めていくことがより一層求められているのではないのでしょうか。

そして、この意見交換会がこれからの教員養成機関・将来を担う学生と当振興協会の未来や発展の大きな一助となることを期待しています。



子育てフェアin沼津

平成29年6月10日にキラメッセめぐらにて沼津市私立幼稚園協会とK・mixがタイアップした子育てフェアを開催しました。応援イベント「おやこんぼフェスタ」では「愉快な家族時間を提案する」をモットーに活動するプロジェクトであるおやこんぼ。親子がふれあいながら、楽しい時間を過ごす場所を作りたい

思いから、沼津市内の幼稚園と協賛企業が楽しいブースを出展する企画を平成28年度から始め、今回が2回目のイベントとなりました。人気パソナリ

ティである高橋正純さんをMCとしてお招きしオープニングを盛り上げて頂きました。私立幼稚園ブースは遊びのコーナーとなっており、大型紙芝居やお面作りに輪投げ遊びの入れ小麦粉粘土など各幼稚園の先生達が考えたアイデア満載の遊びが参加した子ども達を喜ばせていました。また協賛企業のブースでは木工教室やバルーンアートお菓子つめ放題・キックターゲット

等各企業の特徴を生かした体験型のブースがあり賑わいを見せていました。他にも極めんちやフルフル御殿場の飲食ブースも設けられ、1日中飽きることなく子どもも大人も楽しめた子育てフェアとなりました。

当日は天気も良く、市内外から多くの親子の方々が来場してくれました。子どもと父親や母親と一緒に遊ぶ姿だけではなく、祖父母

子育て フェア in 沼津

や兄弟等と一緒に遊ぶ姿を見ることが出来ました。また各幼稚園や企業などの多くのブースで子ども達の笑顔を見る事が出来ました。この「おやこんぼフェスタ」を通して親子、家族と一緒に遊ぶ事の大切さを感じることが出来たのだと思います。2回目の開催とまだ若い企画ですが、多くの来場者が来てくださり来年以降も続けて行える事でしょう。沼津市私立幼稚園協会だけでなく沼津市全体でこの企画を盛り上げていきたいと思っております。





子育てフェア in 島田・榛南

さる10月28日(土)島田・榛南地区主催の子育てフェアが、当番園のひばり幼稚園(吉田町住吉)によって吉田町立吉小小学校の体育館に於いて開催されました。当日は台風の影響もあつて小雨のバラつく日にも拘わらず、保護者と園児そして地域の未就園児の総数約500人余りの人が集まりました。

講師に福尾野歩さんを招いて『のぼさんと歌って踊って』と題して約1時間半のステージを楽しみました。のぼさんは演劇の子役で芸能界にデビュー、1987年「みんなのバンド」トラヤ帽子店」を結成、年間100本を超えるステージ講演会を開き、全国のファミリー保育士学校関係者などに圧倒的な支持を集めました。2000年4月に惜しまれつつも解散、現在は「旅芸人福尾野歩」として全国で活躍しています。

子育て フェア in 島田 榛南

るや楽しいトークやパフォーマンスで、会場のお父さんお母さんそして子どもたちを二気にノリノリの世界に引き込みました。「キャベツはきゃっきゃきゃ、キュウリはきゅっきゅっきゅ」などの言葉遊びは子どもたちに大人気。時にはお父さんお母さんそして子どもたちをステージに上げてのパフォーマンス、ことば遊びうた遊び手品けん玉遊びありと盛りだくさんの内容に時の経つのも忘れるほどに盛り上がりました。中でも親子で遊ぶメニューは笑顔がいっぱいでした。

保護者の方に「今日は何が良かったですか」と聞くと「普段子どもと中々遊んでやれないので今日はいっぱい遊べて良かったです」また他の方は「子どもとの遊び方が解って良かったです」との答えが返ってきてきました。のぼさんと過ごしたひと時が、親子の絆をより一層深めた実り多い子育てフェアとなりました。



ごっこ遊び 劇あそびのすすめ

認知・非認知スキルを高める 教育活動としての「ごっこ遊び・劇あそび」

子供の社会性を育てる劇あそび 「5歳児の保育実践から」

運動会が終わってからの2ヶ月半。共励保育園の4歳5歳児のクラスは劇あそびの活動を繰り返してきました。3歳までは親と一緒に楽しむごっこ遊びですが、4歳からはホールの舞台上で演じる劇あそびとなっています。

4歳児の活動では、絵本やその他から題材を得、保育士が物語りを構成しますが、5歳児はマッピング活動を通して、子供たちと話し合いながら物語を創っていきます。

『ぼくは王様になって、Rちゃんと結婚したい！』その年のゆり組の劇遊び活動は王様のひと言から始まりました。動機はちょっと不純ですが、そんな個人的な願望を劇遊びに取り入れてもいいのです。共励保育園の5歳児の劇遊び活動は、子供たちのやりたいことを舞台の上で表現するというのが基本コンセプトです。

別に、映画「ウォーター・ボーイズ」に強い影響

を受け、どうしても「シンクロ」を舞台でやりたいという子がいました。この子を中心とした、元気な仲の良い10名ほどのメンバーはそろって「シンクロをやりたい！」と保育士に要求を出します。そこで、劇のストーリーを決めていく過程で、その子たちは忍者の役を受け持つことになり、忍者の修行で「シンクロ」をするということになりました。

忍者とは全く対照的なお淑やかな女の子たちが同じクラスにいました。劇では「リスになってハーモニカを吹きたい」といいます。夏のお泊まり保育の夕ご飯の後に、私はいつもリコーダーを吹いて曲名を当てるクイズを子供たちに出します。そのクイズに興味を持った子がいて、自分たちが得意なハーモニカで「曲当てクイズ」をやりたいと申し出たのです。

子供たちのそれぞれの要望を受け、保育士は子供たちが語る物語を書き留め、マッピング活動を加え、時にはヒントを与え、また一緒に悩みながらイメージをふくらませ、劇のストーリーを作りあげていきます。物語は次のように決まりました。

社会福祉法人同志舎
共励保育園理事長
和光大学心理教育学科
非常勤講師

長田 安司



長時間保育をはじめとする労働対策中心の保育施策が日本の活力を失っていく構図「保育園のパラドクス（逆説）」を新聞紙上で発表。2013年「便利な保育園が奪う本当はもっと大切なもの」を上梓。誤った国の保育施策を厳しく指摘した。

2013年BSフジ・プライムニュース「待機児童ゼロへ急改善 市長が語る横浜方式」に出演。「待機児童を解消したところで、問題が解決されるのか？」と疑問を呈し、子供の視点からの発言で話題となる。

毎年2月に開催される保育展では、遊びを通して学ぶ「総合保育」を公開。0歳から5歳までの連続した子供の発達を保障する保育実践は保育関係者に高い評価を得ている。

忍者たちの修行のためにお弁当を作ってくれている妹（Rちゃん）が王様に連れ去られ、忍者たちはお城に連れ戻しに行きます。途中リスの出す曲当てクイズに正解し近道を教えてもらいお城に着くと、妹は簡単には返してはもらえず、王様は自分が得意な「言葉ゲーム」に勝ったら妹を返してくれると約束します。そこで忍者たちは王様チームに挑戦し妹を取り戻すということになりました。

「言葉ゲーム」というのは、ひら仮名一文字が書かれているカードを組み合わせ、意味のある単語を作る競争です。例えば、「た」と「こ」で「たこ」というようにです。

早く単語を10個作れたチームが勝者となり忍者の妹を獲得することができフィナーレとなります。王様チームが勝てば、王様はRちゃんと結婚式が舞台の上ででき、忍者が勝てば無事妹を取り戻すことができるというわけです。

劇は子供たちの要求を叶えながらクライマックスに

進みます。ウィリアムテル序曲に乗って「言葉ゲーム」が始まり、子供たちは必死に文字を組み合わせ、用意されたボードに並べていきます。やはり王様チームはこのゲームが得意らしく、どんどん単語が作られていきます。一方、忍者チームは、文字がよく読めない仲間もおり、なかなか進みませんが、それでも大健闘です。「せみ」「おゆ」「さめ」「むし」「へそ」・

忍者チームが難渋しているうちに、王様チームが「うり」という言葉を最後に10個の単語を作り終えました。審判員は笛を吹いて王様チームの勝ちを宣言します。とたんに忍者チームは「くやしーくやしー！」と舞台の上で地団駄を踏むではありませんかお母さんの見てくれている舞台では、どうしても勝ちたかった勝負だったのでしょうか。

王様は勝ったことで夢が現実のものとなり、ちよつとポーっとしてしまいました。気を取り直し、花東を持ってRちゃんの前にひざまずき「お嫁さんになつてください！」とプロポーズをします。誰しも「めでたし、めでたし」で幕が下りる、と思つたその瞬間、忍者のリーダーが「『うり』って何？」と、王様チームの並べた10個目の単語「うり」にクレームをつけたのです。

忍者のリーダーは「うり」を知りませんでした。すると、他の忍者たちも「そんなのアリ?」「売りのウリ?」と追従しました。意味の無い言葉は認められないという強い意思表示でした。

それに対して大臣は自信を持って「うん、『うり!』、『漬け物』だよ!」と応えました。それには、会場も大爆笑。それでも忍者たちは納得しなかつたので舞台は「うり論争」で大騒ぎとなつてしまいました。残念ながらこの論争のお陰で、王様の二世一代の望みであつた舞台上の結婚式はすつ飛んでしまい、舞台は爆笑と混乱のうちに、リスたちのエンディングテーマ演奏で幕が下りたのでした。

約2ヶ月半のこの創作的活動を通して、子供たちはさまざまなトラブルや、問題を解決するために自

分の意見を主張すること、解決策を見いだした時に生まれる喜びや一体感、ルールに従うことの大切さなどを学びます。

そして、何よりも子供たちの心を動かしたのは、物語の世界に入りきり、登場人物になつて繰り広げる友達とのやり取りの楽しさだと思います。個人の成長に集団が大きな意味を持つことは言うまでもないでしょう。

加えて、子供たちの意欲的で主体的な取り組みを現実のものとするためには、小さな達成感と共にその年齢なりの力が蓄積されていくことが重要で、思つていても伝えられない、ルールや説明されたことの意味が分からない、作りたくても作れない不器用な手では世界は広がらないのです。

そうした子供たちの発達を保障するには、0歳から5歳まで、成長発達に見合ったカリキュラムの必要性とそれを實現する保育士の力が要求されます。

最後に、「劇あそびのすすめ」として、観て面白い劇手法のひとつをご紹介します。共励保育園では、劇中に何らかの「対決」を組み込みます。「ケンケン相撲」「腕相撲」「椅子取りゲーム」「だるまさんが転んだ」などを劇中に入れる事によって、子供たちの真

剣な姿が舞台上で表現されます。このことによつて緊迫した場面を作り上げるこ



ができ、幼い子供たちの劇であつてもリアリティーのある劇になることが多くあります。一度試してみてください。(完)





夢を叶えてみて

認定こども園 藤枝橋幼稚園

竹下 知花

夢だった『幼稚園教諭』を叶えて6か月が経ちました。私は今、補助教諭と共に年中のクラスを受け持っています。先生になつての目標は、「何事にも全力で！」「がむしゃらにやってみよう！」でしたが、保育内容が上手くいかなかったり、子ども達への声掛けの戸惑い・保護者からどう思われているのかと悩む時もあり、ついで下を向いていたようです。

ある日、園長先生、先輩先生から「失敗しても大丈夫！先生が不安そうにしていれば子ども達もつと不安になるでしょ」と声をかけて頂き、態度にも出ていた事を反省しました。その言葉によって子どもへの関わり方を見直す機会になり、子ども達の事を最優先にと切り替えることが出来ました。今では、笑顔で関わる事が増えました。また、子ども達と衝突した時には、まず「子どもの話に耳を傾けること」そして最後に、「先生はこう思うよ」と関わる事を心掛けました。時間をかけ一人ひとりと関わる事で、その子の長所を見つける目が備わって来たように感じています。朝、笑顔で登園し



てくる子ども達を見る度に『幼稚園の先生になつてよかった』と心から感じます。子ども達が昨日は出来なかった事が今日は出来た、明日はどんな事が出来るようになるのか、成長を近くで感じられるこの仕事にとってもやりがいを感じています。そんな中、『ピアノ』という私には一番苦手分野で大きな壁があります。夢中で練習しても、つかかり空回りしてしまう事が多くありました。練習していくうちに子ども達が「上手になつたね！」と声を掛けてくれた事がとても嬉しかった事を今でも鮮明に覚えています。12月のお遊戯会には子ども達が楽しく歌う姿をお客様に見ていただきたいとピアノの

練習を続けていきます。

保育は教育課程に基づき《目標・ねがい》等に向け活動を計画しているのですが、欲張らず、自分を見失うことなく、子ども達と共に先生として大きく成長していきたいと思っています。何よりも今は、夢を叶えて『よかったー！』の毎日です。

幼稚園教諭になつて

認定こども園 みのり幼稚園

山村 舞

私が幼稚園教諭を志したきっかけは、中学生の時の職業体験でした。この時に、現在勤めている幼稚園に行き、多くの子ども達と関わりました。この時から、幼稚園教諭に憧れを持ち、その後、保育科へと進み、実習などを通して4月より幼稚園教諭になることが出来ました。実習の時は、園児から「お姉さん！」と呼ばれていました。「せんせい」と呼ばれるようになり、改めて自分が幼稚園教諭になったと実感しております。



事前の準備が大切だと感じております。子ども達にひとつでも多くの事を知ってほしい、経験してほしいという思いを準備の段階からしっかりと持ち、形にしていくことの必要性を学びました。先輩の先生方と同じ活動をしていても、こう声掛けをすれば良かったのかという気づきや、こう進めていけば子ども達も楽しんで取り組めたのかという発見もあり、日々勉強中です。

最初の1か月は、

思うように園児をまとめることができず、全員に指示が伝わらず、私自身も余裕がなく、一人ひとりと深く関われなかったように感じます。戸惑いや焦りの気持ちを抱えたまま活動し、これで本当に子ども達は楽しんで活動できているのだろうかと思う時もありました。しかし、悩んだ時、子ども達の笑顔や元気に助けられ、また、先輩の先生方の助言もいただきながら少しずつ保育にも慣れてきました。半年が経ち、保育をしていく上で

えた保育を心掛け、私自身、子どもたちと一緒に成長していけたらと思います。幼稚園教諭になることが目標ではなく、一人前の幼稚園教諭になることを目標とし、これからも笑顔忘れずに、「せんせい」と呼ばれるように頑張ります。



保育の窓 コミュニティ

幼稚園教諭として

双葉幼稚園

加藤志保子

私は、昨年度より数十年ぶりに復帰し年少組の担任となりました。

以前、双葉幼稚園で結婚退職するまでの8年間勤務しており久しぶりに担任となった事で様々な保育の場面で、諸先生方に指導を受けました。現役から長期間遠ざかっていた為先生方には本当に数多く助けられました。また自分自身も子ども達から学ぶ事が多く、毎日がとても新鮮で新たな発見や感動の連続でした。思いがけない嬉しい再会もありました。それは、新任の頃担任をしていた子ども達が親となり我が子を双葉幼稚園に入園させてくれた事、またその子ども達を今担任として保育する事が出来ている事です。この幼稚園を選び、私を担任として信頼して預けてくれた事は何事にも代え難い喜びでもありました。その様な子ども達を日々保育していく中で、昔の記憶も鮮明に思い出されます。本年度も年少を担任しています。今年も昨年とはまた違った個性を持つ子ども達の保育に一喜一憂しながら日々奮闘しています。



す。昔と比べ子ども達を取り巻く環境の変化に戸惑う時も多々ありますが、私を慕ってくれている沢山の子ども達がいいて、行事毎その子ども達と活動出来る事が楽しく、それら行事を経験する事で確実に子ども達の成長する姿を近くで見ることが出来るやりがいを感じずにはいられません。時には辛い事もあり、心が折れそうになっても「先生おはよう」と笑顔で元気に子ども達が挨拶をしてくれると、私の悩みも一瞬で消えていきます。そんな子ども達の笑顔を励みにこれからも現場の先生はじめ、様々な人々の知恵をお借りし、自分で考え一日一日を大切に心を込め保育に励んで行きたいと思っています。

私自身も二人の子どもの子育てを経験していますので、その経験を生かし、日々子育てで悩んでいるお母様方の力に少しでもなればと思っています。さらに子ども達にも人として大切にしていかなくてはならない事を伝え、楽しい幼稚園生活の思い出の一つでも多く子ども達の心の中に残してあげたい。それが私の使命であると思っています。

毎日キラキラ！驚き！いっぱい

てるみ幼稚園

日吉由実

「ゆみちゃんは大きくなったら何になりたい？」当時、幼稚園の先生の質問に対し、「わたしは、ようちえんのせんせい！」と大声で！

私は、幼少の頃から夢を叶えるまでこう言い続けてきました。そして夢はずっと変わらず、気が付けば長い間の夢だった幼稚園教諭になり早六年が経ちました。先生になって日々を過ごす中で未熟者の私は知らないことが沢山で毎日が驚きと発見の連続でした。

「せんせい！でっかいクモ捕まえた〜！」

「えっ〜？」おぼけを見たかのような顔で私は子どもを見ました。私は虫や生き物が大好きです。まず先生になって格闘したことは虫との触れ合い。新任の頃はダンゴムシも触れない程でした。しかし子ども達のとびきりの笑顔をみて、いつもだったら「キヤー！」と逃げてしまう私も何故か子どもと一緒に見入ってしまったのです。

私はこの職業に就かなければ体験できなかった子ども達と同じようなキラキラした驚きや発見がたくさんあります。まずは、蜘蛛は脱皮をするという事、カタツムリは顔の横から排便するという事、蟬のメスは鳴かないという事、ザリガニは二百匹位の卵を産むという事、カマキリは後ろから持つと挟まれないという事などです。他にも初めて知って驚いた事はまだまだありますが、多くの発見は子ども達が教えてくれました。



お部屋で飼っていたザリガニが孵化した事があり、私は初めて生き物が孵化している場面を見て感動しました。子どもと同じように目を輝かせていたと思います。子どもは私が感動したような出来事を毎日見つけたり、

驚いたり感動したりして日々過ごしています。

幼稚園の先生として私はまだまだ未熟です。しかしその分初めて知ることや驚く事も多くあります。キラキラを見つめる名人の子ども達と一緒にいつまでも様々な事に驚き、気づき、発見しながら幼稚園の先生にしか分からないキラキラをこれから見つけて楽しんでいきたいです。

園内安全管理研修会

建築設計士の立場から考える園内の安全対策・管理ポイント

講師 / ジャクエツ環境事業部名古屋設計事務所
建築設計士 澤村 宏氏

台風の影響で大雨の日でしたが、園内安全管理小委員会・島津委員長のご挨拶のあと、澤村氏のお話を伺いました。

職員の出勤から退室までの一日を見学して報告書を作成し、園内の安全評価をして、問題点を新築・改築に反映させる。また、緊急改善点は即時に対応するために、園内ハザードマップを作成する(写真添付)。問題点を共有する方法がよい。

設計時に検討する建物の安全項目としては、

- ・耐震性・耐火性など 災害に対する安全性
- ・園敷地の防犯・セキュリティに関する安全性
- ・建物内の空気環境に関する安全性
- ・保育活動における事故防止に関する安全性
- ・一日保育見学をして

設計初期段階で、園の現状を調査し提案に活かす

- ・園児、職員、保護者、バス、来園者の動線チェックをする
- ・保育の特色を把握する
- ・施設・設備の使われ方の現状をチェックする
- ・改善すべき事・継承すべき事を整理して、園内の危険個所の洗い出し、園内ハザードマップを作成する

園内ハザードマップの作成

- ・第3者の目線で危険個所を洗い出す(外部委託)
- ・職員で作りを共有する。意識を持ち続ける
- ・職員の危険意識レベルの個人差を無くす
- ・見過ごしている危険個所を確認する
- ・認識しているか、放置しているかを確認する
- ・新任職員の研修・教材として活用

(事故原因のパターン)

衝突・転落：曲がり角・死角・混雑・ガラス面・施設の高さ

転倒・転落：段差・保育室と廊下の段差・滑りやすい床材・手すり・フェンス

転落：履き出し窓・腰高窓の下に本棚・ロッカー・椅子を積み重ねるのは危険

避難器具の周り・階段・コーン・紐・チェーンで止める

挟まれ：指詰めサッシ・指挟み→ストッパー・トイレブースの扉

園庭：遊具周り・プール管理・門扉・フェンス・樹木管理(高木)

駐車場：誤操作運転対策→車止めブロックと緩衝材

バス駐車場：園児の飛び出し→二重の管理・園庭への乗り入れ・歩車道分離

その他：避難経路の確認

転倒防止の対策：子どもの歩く場所に体育器具などを置かない

湿式床から乾式床に：細菌が発生しやすい(厨房は職員の負担軽減)

消火器ボックスは壁に埋め込む・共有部分に置く。引き違いアルミサッシ戸で指挟みの危険性

本棚の転倒予測

掲示物は(画鋲)マグネットボードに変更

蛍光灯は飛散防止対策

電子オルガン用の延長コードに足を引っかけ(コンセントの増設)

危険と思う意識レベルは人によって違うのが現状である。施設で働く人は意識統一を図ることが大切である。先生は怒るが先生は怒らないで困る。

全ての園が建て替え前提ではないと思うが、曲

がり角の衝突防止は廊下(床)に線を引く・止まれの標識の絵でも改良できる。共通意識の持ち方で改善できるのではないかな。



子ども達との
ふれあいの中で

みなみ幼稚園保護者会会長

小林勇生

我が家には、小六の長男・小三の長女・年長の次男・そして二歳の三男がおり毎日が動物園状態ですが、賑やかで楽しい日々を送っています。私がこの地に住む様になつてから十数年経ちますが、当時は地域の事など全く分からず過(こ)してしました。子どもが出来、長男が小2の時に地域の事を知らないままでは子どもの為にもよくないと思い、子供会役員になり小学校のPTA役員、現在は幼稚園で保護者会の会長をさせて頂いています。舞台上に立たせて頂き地域の多くの方々と知り合いになれ、また子ども達と触れ合う機会も増えて多くの子ども達と知り合う事が出来ました。触れ合う機会が増えたと言つてもイベント等でしか顔を見せていませんが、それでも子ども達は覚えていてくれて、たまの休みで次男を迎えに行くとき「たつきくんのお父さんだ！」と言つて声を掛けてくれたり、虫かごに入っている虫を見せて「これとつてきたんだよ」等、色々な話を嬉しそうに、そして分かつてもらおうと一生懸命に話をする姿を見てとても



嬉しく感じました。また、中には私のお尻をペンと叩いたり、くすぐつてきたりと色々なちょっかいをして来る子ども達もいますが、それはそれでとても嬉しい事でした。今でこそ、私から挨拶をしたり「どうしたの？」等、子ども達に声を掛ける事が出来ますが、初めは自分の子どもではない子にどの様に話を切り出せば良いか戸惑う時期があり、中々声を掛ける事が出来ませんでした。しかし子ども達と少しづつ触れ合う中で、難しく考えないで「どうしたの?」「たのしかった?」等、素直な気持ちで子ども達と同じ目線になり、話をしたり行動すれば良い事に気付かされました。子ども達から学ぶ事は他にも沢山あり、自分も学び成長しなければならぬと感じました。そんな子ども達も元気にそして純粋な心が真つ直ぐ成長出来る様に見守つていければと思います。

子ども達に教わった事

西野幼稚園PTA会長

中野剛一

我が家には、小学3年生・2年生・年長・年少になる4人の息子がおります。

男の子4人ということもあり、毎日が慌ただしく、運動会のような賑やかさの中で生活をしています。

上の子2人が小学生に上がったくらいから下の2人も一緒になって悪戯をするようになり、壁紙を破いたり、物をなげて床を傷つけてしまつたり、毎日常のどこかで僕や嫁の怒る声が響いていますね。

そんな子育てで生活の中、子ども達に教わつたことや気付かされた事が多々あります。

『忍耐』や『思いやり』・『ありがとう』や『ごめんなさい』の大切さなど、育児を通して改めて知つたように思います。

9年前に長男を授かり、親となり、これまでの子育ての中で気付かされ、一番感じたのが自分自身が親から与え続けてもらった『無償の愛』でした。

僕が幼かった頃、父親は単身赴任の仕事をしており、週末家に帰ってくるたびに怒られ、よくケンコツをされたのを覚えています。遠くへ



家族で遊びに出掛けても、くどくどと説教されたり、そんな口煩い親父が大嫌いでした。高校生の頃には会話をした記憶もまばらなくらいです。就職して自分自身で稼げるようになると思うと家に離れ、自分勝手に生活をしていましたね。

そんな僕も親になり、子ども達に様々な事を教えている中で思い出すのです『あ、僕自身も同じ事を親父に言われたっけな』と嫌われているから文句を言われるし殴られると思つていたことが、正反對だったと自分の子ども達といつてしみじみと実感させられました。そうすると不思議なもので、今まで忘れていた小さい頃に親父と遊んで楽しかった記憶まで蘇ってくるのです。

今では子ども達を連れて実家に遊びに行き、親父ともよく近況を話すようになりました。ただ、昔の事を言葉に出して感謝したり、謝つたり等は照れくさくて未だに言えていませんが…(笑)。

よく《親の背を見て子は育つ》と言いますが、僕の場合は子ども達を見て親として、そして人として育てられていると思えます。

最後に、これからの日々の生活や様々な園行事を親子で過(こ)す中、子ども達と共に自分自身も成長していけたらと思います。

沼津・三島

街



◆あわしまマリパーク

沼津市内浦に浮かぶ無人島の淡島を水族館やホテルにした施設です。「来て！見て！触って！淡島体験」をキャッチコピーに、水族館やプール・食堂等で構成されています。淡島までは連絡船で移動し、船を降りると二頭のイルカが来園者を出迎えてくれます。

また45種以上120匹と展示種数日本一を誇るカエル館や2種類のペンギンがいるペンギンプール、他にもアシカ・アザランのショーやイルカショーを見ることが出来ます。

海鮮丼が食べられる「Mr.丼亭」や「う



◆三島スカイウォーク
三島スカイウォークは民間企業が運営する全長400mの日本一長い吊橋です。平成26年の伊豆縦貫自動車道の開通に伴い、三島が単なる通過点とまらないよう三島に人が集まるものを作る事で地域への恩返しをしようと考え作られました。

吊橋を渡りながら富士山や駿河湾といった日本一の風景を一望できます。また吊橋だけではなく、周辺には吊橋や景色を一望できる展望デッキや一年中どの季節にも美しい花のシャンデリアが見れるスカイガーデン、北エリアにある散策路「Kicoroの森」・森のキッチン・お土産ショップ等見どころ満載です。



またラゲジュアリートイレも見どころの1つとなっております。スカイウォークに来た際はお立ち寄り下さい。

◆楽寿園

楽寿園は三島駅のすぐ南に位置した広さ約7万5千㎡の自然豊かな公園です。明治維新で活躍された小松宮彰仁親王が、明治23年に別邸として造営されたものです。

湧き水からなる小浜池やせりの瀨などの天然池泉と周囲の自然林からなる庭園は、国の天然記念物及び名勝に指定されています。県・市指定の文化財である「楽寿館」は京間風の高床式数寄屋造りの建物で明治を代表する日本画家による装飾絵画もあり、1日6回ガイド付きツアーの館内見学が行えます。

また園内にはレッサーパンダ・アルパカ・カピバラ・ポニー等がいる動物

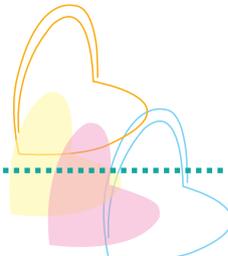


広場や乗り物広場があり、地元幼稚園の子ども達も遠足に訪れる場所となっております。お子ども連れでも楽しめる場所です。

また楽寿園は伊豆半島ジオパークの三島ジオサイトの1つにも入っており富士山からの溶岩の上に出来た樹木を観察することが出来ます。小浜池も溶岩の間から湧き出た湧き水から出来ている等、見どころのある公園となっております。



歯は命



上野幼稚園 吉野友勝



深く考えていなくとも

日常生活で当たり前前に自分の周囲にあるものについて、私達はあまり深く考えることもなく受け入れています。

ペットボトルのお茶もその一つです。ペットというのは容器の材質であるプラスチック名の頭文字を取ったものですが、会合の時や甘さを気にする時の飲物として利用しています。ラベルの表示をよく見ると、原材料名に緑茶、ビタミンCと書いてあります。お茶はビタミンCを多く含むと教えられてきたのに不思議ですね。V・Cと表示する商品もあります。主に酸化防止や発色向上のために添加するそうです。多種多様で大量に販売されていますが、あれ全部天然のビタミンCでしょうか。天然素材から抽出していたら手間がかかります。それより化学式を調べ、同じ物を工場で製造したら使い勝手もいいし、大量販売に向いていると思いませんか。ある専門家の本に、合成ビタミンCをたくさん摂取していると、他の食物との組合せもありますが、尿管結石症になりやすいとありました。当り前に日常生活の中にあると深く考えませんがちょっと意識したいですね。

近年日本人もコーヒーを飲む習慣がありますが、注文すると砂糖と

小さい容器のミルクがついてきま

す。あのミルクの容器は注意して見ると常温で置いてあります。ティクアウトのお店だと、気の利いた入れ物に無造作に入っています。無料で好きなだけ持っていけるようです。あれがミルクや生クリームならなぜ常温で置かれ、無料なのでしょう。不思議だと思いませんか。そう思って調べてみました。大学の理学部化学科を卒業し、食品添加物の会社に勤めていた元トップセールスマン

の書いた本に出会いました。それによると、植物油に水を混ぜ、添加物で白く濁らせてミルク風に仕立てたものだそうです。詳しく説明すると、サラダ油に水を混ぜ、乳化剤(洗剤にも使われている水と油を混ぜる界面活性剤のこと)を入れると、水と油が混ざってミルクらしく白く乳化する。ミルクらしいとろみがないので「増粘多糖類」でとろみをだし、「カラメル色素」で薄く茶色に着色して程よい色合いにしてクリームらしくするそうです。仕上げに日持ちさせるために「PH調整剤」を入れ、クリームの香りの「香料」を入れるそうです。あの小さな容器にはないが、それを詰めた大袋には原材料表示があります。ミルクも生クリームも書かれておらず馴染みのない漢字やカタカナの薬品名しかありません。小さい容器や包装は個々に表示しなくてよいと食品衛生法にあ

るそうです。

述べてきた専門的なことでなく、

誰もが毎日体験しているが、あまりにも当り前すぎて深く考えないこと。一番は「自分が飲んだ物・食べた物が自分の血液と60兆の細胞をつくっている」ということです。自分の飲食の傾向・習慣が、時間をかけて自分の体質も健康も病気もつくり出します。30数品目が必要とカヒアルロン酸・グルコサミン・コラーゲンとか色々な情報が流れますが、基本はどこにあるのでしょうか。

歯の意味

動物は、それぞれ自分の食べ物に合った歯を持っています。肉食動物は犬歯が多く、草食動物は臼歯を多く持ちます。私達人間はどうかでしょう。私達は成人で32本の歯があり、野菜等を食いちぎる門歯が上下各4本計8本・穀物をすりつぶす臼歯が20本・肉類を引きちぎる犬歯が上下各2本計4本あります。

分数にすると、門歯32分の8(25%)・臼歯32分の20(62.5%)・犬歯32分の4(12.5%)になります。歯は、その動物に適した食べ物をそしゃくするためにあります。だから歯は、私達が何を主に食べるべきかを教えています。

野菜類25%・ご飯を主とする穀

物62.5%・肉や魚等の動物性12.5%が歯の教える基本です。

当然その先の消化機能・消化酵素もそれに見合ったものになっているはず。

35品目食べるべき・あれが良いこれが効く・栄養素等の部分を取りあげた情報が多いが、私達の体の構造は何か変わったのでしょうか？数千年の歴史の中で、その民族が生きてきた気候風土・文化が食べ物を決め、食べ物と最初に出会う消化器官である歯も決まってきたのではないのでしょうか？

基本から外れる食生活が多ければ多いほど消化機能の負担は大きくなり、長い年月の間に体調不良や病気を生み出すのではないのでしょうか？

品という字の下に山という字を書き、「やまいだれ」をつけると、癌という字になります。山のような食品と品物に囲まれ病が多くなったとは思いませんか？

自分が飲んだ物と食べた物が自分の血液と細胞をつくっている事実が変わっていません。



ナイスショット

静私幼だより

NO.181

2017.12.15

発行人／千葉 一道
編集人／後藤 正章
広報委員会

発行所／(一社)静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私立学会館内

TEL:054(254)6820・FAX:(255)3694

印刷／株式会社 レイジー・デザイン・村松青子
http://www.shizushiyou.or.jp/
E-mail: office@shizushiyou.or.jp



このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。



鎌で稲刈りに挑戦!



みんなでお掃除

きれいになって公園ピカピカ

笑顔もピカピカ



大きすぎて重いよ〜



焼いも焼いもあちちのチー



おもいさよう〜!



みんなでローラー滑り台! 楽しいな!



お祭りのお獅子だよ!



おそろのくもみた〜い!



お父さんとお餅つき楽しいね



太鼓たたけるよ!

【編集後記】

季節は冬になり2学期も終わりに近づき、今学期を振り返ってみました。夏休みが終わったばかりの暑かった頃から比べると、子ども達の成長を様々なところで感じます。運動会・秋のいもほり遠足・発表会など大きな行事の中での貴重な体験が子ども達の成長に大きく関わっていると思います。もちろん子ども達の成長には、行事だけでなく日々の

保育が土台になっていることは忘れてはいけません。

これからまた更に寒くなる季節です。3学期も日々の保育を大切に、子ども達の元気と笑顔で寒さを吹き飛ばし、春に向けてしっかりと準備していきたいと思っています。

広報副委員長 / 智光幼稚園 佐々木快典

(表紙写真/こぼと幼稚園)